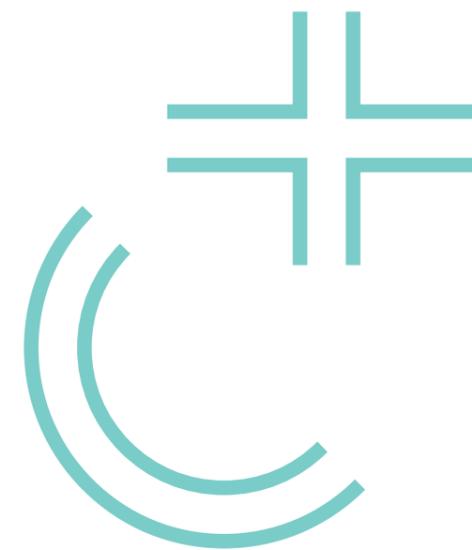


## 佐那河内村

〒771-4195 徳島県名東郡佐那河内村下字西ノハナ31番地

TEL:088-679-2111(代表) FAX:088-679-2125

<https://www.vill.sanagochi.lg.jp>

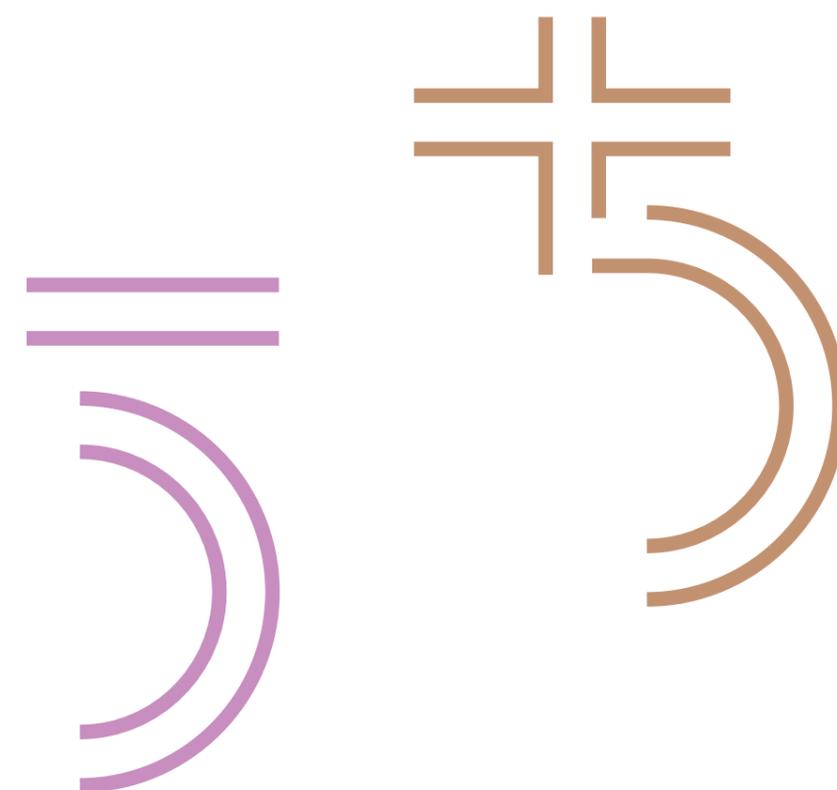


SANAGOCHISON



さなごうち  
次世代へ贈る、  
新しい光景・  
ものがたりの創出

シンボルマーク発表資料



# 子や孫世代へとつなぐ、 新しい村づくりプロジェクト、 はじまりました。

## ■事業名称

さなごうち

次世代へ贈る、新しい光景・ものがたりの創出  
(略称:さなごうち新ものがたり創出事業)

### 次世代へ贈る

村のみなさまが、子や孫世代の  
より良き未来を願いつつ、  
共感・参画いただきたいという想いが  
込められています。

### 新しい光景

新庁舎をはじめ、デザインの視点も  
取り入れた総合的な事業展開を推進し、  
村に新たな景色や表情をつくれます。

### 新しいものがたり

一連の事業展開から派生することが  
期待される、さまざまな反響や効果を  
「ものがたり」として表しています。

## ■事業意図とシンボルデザイン導入の目的

いま佐那河内村では、少子高齢化と急激な人口減少が進み、各種コミュニティの後退が進むなど、これまで村人が経験したことのない厳しい課題に直面しています。佐那河内村にしかない恵まれた立地、人と人の絆や代々受け継がれてきた歴史、文化、豊かな自然、優秀な農産品など、村独自の魅力や資産を、いま一度再認識し、洗練させ、次の世代に継承していく取り組みが急務と言えます。

安易に他の市町村の成功事例をまねたり、借り物の価値を導入しない、この村の潜在能力を開花させるような独創的な企画と実践が必要です。「さなごうち 次世代へ贈る、新しい光景・ものがたりの創出」は、そういった背景・視点からスタートさせた事業展開です。

シンボルマークは、この取り組みを共有し、強力に推進していく旗印として制作されました。

## ■事業内容

「さなごうち新ものがたり創出事業」は、村人みんなで地域資源を見直し、掘り起こし、最大限に活用することを基本に、持続可能な村づくりを推進していきます。事業プランは、以下4点を柱とし、それぞれのテーマに即した複数の事業プログラムを並行して展開。また、シンボルマークを軸に、デザイン、メッセージなどに統一感を持たせ、村の取り組みや姿勢を一元的に発信し、対外的な佐那河内村の存在感やイメージの向上をはかります。

## 1 シビックプライド (村人である誇り)の醸成

- ・シンボルマークの制作、総合的なデザイン展開
- ・四季折々の景色や村独自の魅力を写真作品に残す
- ・村のサイン整理(統一デザインの導入、景観づくりなど)
- ・村で「あること」を知る学習会など
- ・集落点検
- ・農産物などを活用した産品づくりやふるさと納税の強化

## 3 村にのこる文化資産の披露

- ・新庁舎展示棚へ山根玉峰先生、荒井賢治先生のプレート及び作品展示
- ・山根玉峰先生追悼展、荒井賢治先生写真展(新庁舎活用事業)

## ■取組期間

令和4年(2022)3月13日の新庁舎落成より令和8年(2026)3月までの約4年を取組期間と設定し、各事業プログラムを同時並行かつ横断的に進めていきます。

## ■運営組織

さなごうち新ものがたり創出事業実行委員会

岩城福治村長を実行委員長とし  
村内各種組織体などのリーダーに参画いただき  
構成しています。実行委員会は、  
「さなごうち新ものがたり創出事業」の実施・運営を  
決定する村づくり全体の運営母体となります。

実行委員長 岩城福治

副実行委員長 長尾久代

副実行委員長 富長伸司

委員 随時選出

## ■職員の特別編成チーム

役場内には、職員によるクロスファンクショナル  
チーム(CFT)を設置し、委員会や部会の  
支援とともに、部門横断的なテーマの  
検討、解決策の提案などをめざします。

## 2 村の歴史・伝統文化の保存

- ・佐那河内村の総合学術調査の実施
- ・「佐那河内村史」編纂に向けての取り組み
- ・「Webライブラリ」の構築(デジタルアーカイブス)
- ・村の歴史等の講演会

## 4 村の集いの場の創出・活性化

- ・「広報さなごうち」、村ホームページの刷新
- ・村の景観づくり
- ・都市生活者との交流・新たな絆づくりの推進
- ・「さなごうちFAN SHOP」村内外事業者と連携し、佐那河内村の魅力を発信する事業

## ■各プロジェクトチーム(部会)

具体的な課題解決に向けては、折々にプロジェクトチーム(部会)をつくり、村づくりにむけた各事業の計画策定および実施に関し  
必要な事項についての調査検討などをおこないます。

### ・CIデザイン部会

「さなごうち新ものがたり創出事業」を推進していく核となるプロジェクト  
チームです。シンボルマークの制作をはじめ、各事業の発信に際して、  
メッセージやデザインのコーディネートをおこない統一感をつくります。  
\*CIデザイン=団体・組織の理念、姿勢、取り組み、想いなどを集約し、視覚化すること。

### ・歴史等学術部会

佐那河内村の歴史について改めて調査・研究をおこない、村人の歴史認識を  
さらに深め、村への愛着や誇りを高めるとともに、伝統・文化の保存と継承、  
新たな村史編纂に向けた気運の高揚などを推進します。

### ・景観デザイン部会

村の景観をまもり、つくり上げていくことは、「他市町村との差別化」や  
「村の価値を高め、伝える」ことに繋がります。サインという「点」と、  
景観という「面」を複眼的に考察し、佐那河内村というエリア全体の好感度を  
高めていく取り組みを、長期的な視野に立って構築していきます。

\*部会は、必要に応じて随時設定・改編していきます。



豊かで、穏やかで、  
優しい佐那河内村を  
まもりたい

佐那河内村長

## 岩城 福治

佐那河内村は、古くから伝わる講中、常会、名中という重層的な住民自治組織によって支えられています。この活動は、コロナ禍にも屈することなく続けられ、行政やJA、地域行事の情報伝達を絶え間なく行うとともに、地域の合意形成やコミュニケーションの場として大きな役割を果たしています。また、村の基幹産業である農業は、江戸時代に蜂須賀公へ献上されていた「御膳米」、村の象徴である「みかん」や「すだち」「ゆず」「ゆこう」などの和柑橘、村のオリジナルブランドで全国的に有名な「さくらもいちご」を筆頭に「達磨キウイフルーツ」「大川原ねぎ」「しいたけ」「菜の花」などが栽培されており、県内外の食卓に村のごちそうを届けています。

現在の日本は、少子高齢化と人口減少の進行にともない、全国各地で住民同士の支え合い体制の弱体化や地域それぞれにある産業の衰退などが懸念されています。佐那河内村も同様の課題を抱えています。村のみなさまのがんばりによって、なんとか先人から受け継いだ地域コミュニティが保たれています。目前の2025年には、団塊の世代が後期高齢者となる超高齢社会が峠として訪れ、2040年には1.5人の現役世代(生産年齢人口)が1人の高齢世代を支えるという世代間の不均衡が、より高い峰として待ち構えています。

こういった状況のなか、すべての村人が峠と峰を越え、その先にある「豊かで」「穏やかで」「優しい」、今までと変わりのない佐那河内村に到着するためには、村人みんなで地域資源を見直し、掘り起こし、新しい力も取り入れながら、より本質的で創造的な取り組みを行う必要があると痛切に感じています。「さなごうち 次世代へ贈る、新しい光景・ものがたりの創出」は、そういった背景・視点のもと持ち上げた事業展開です。村人のみなさまとともに、未来の子や孫世代に思いを馳せつつ、一歩ずつ着実に歩みを進めていきたいと考えています。

Message from the deputy chairman

Shinji Tominaga



さなごうち新ものがたり創出事業実行委員会  
副実行委員長

富長伸司

中学時代の恩師が何気なく呟いた「村に入ったら、柑橘のええ匂いがする・・・」という言葉が、ずっと意識の中にありました。いったんは外へ出て行きましたが、先代が創り上げた畑を受け継ぐと決意できたのは、この言葉があったからだと思います。若い頃にはピンとこなかった農業の魅力や価値が、年を重ねるにつれ鮮明になる気がします。同じことが「人とのつながり」にも言えます。村は不便です。でも不便だからこそ、人を気遣ったり、助け合ったりできるのだと思います。「親戚は三代で終わるが、近所はずっと続く」と祖母からよく聞かされました。多様性の時代とも言われますが、他と比べるのではなく、この村の良さを自信を持って語っていきたいと思います。

他と比べず、

村の良さを語って行く

村を、もつと

好きになつて欲しい

Message from the deputy chairman

Hisayo Nagao



さなごうち新ものがたり創出事業実行委員会

副実行委員長

長尾久代

この村に生まれ、この村に育てられ、今の平穏な暮らしがあると思っています。何か少しでも恩返しができたらという思いで、佐那河内村婦人会などのボランティア活動にも関わってきました。子育て中は難しくても一段落したら、少しずつでもいいので周りのこと、村のことに意識を向けると、新しい発見や楽しさも見つかると思います。「この村には何もない」という声を聞くと、哀しい気持ちになります。この村をもっと好きになって欲しい、誇りを持って欲しい、と私は思います。今一度、佐那河内村のことを掘り下げて学んだり、考えることが必要なのかも知れません。今回はじまった事業が、私も含め村のみんなにとって、新しい気づきや行動のきっかけになることを願っています。

# さち香る 風の谷

## さち香る

さくらもいちご・達磨キウイフルーツ・みかん、また、すだち・ゆず等の和柑橘や  
棚田米・しいたけなど、地元徳島の料理人をはじめ京阪神市場・東京市場にも支持される  
質の高い自然の恵み(幸)を育む土地柄であること。また、村人が自然と共生し、  
共助の精神を保ち、静かに幸福感(幸)を抱きながら暮らしている里山であること。  
この二つの「幸」が香りたつエリアであることを、短いフレーズに込めています。

## 風の谷

佐那河内村最高峰の山、旭ヶ丸を背に  
園瀬川、嵯峨川、音羽川が流れる、山紫水明の谷あいの里。  
上空には風力発電にも適した穏やかな風が、四季を通じて吹いています。  
大きな自然災害もなく、千年以上にわたり人の営みを見守ってきたこの豊かな風土性は、  
現代の都市空間にはない、ノスタルジーや根源的な価値に満ちあふれていると言えます。  
未来への多様な指標が議論される今、この村ならではの魅力を  
より多くの人に、理屈ではなく、まず感覚的に捉えていただきたい。  
そんな想いを込めたフレーズが「風の谷」です。  
風は、自由・持続・潜在能力・安寧の象徴として用いています。

制作担当:新居篤志……………1965年吉野川市生まれ。香川大学法学部法学科  
卒業後、1988年にコンピュータソフトウェアメーカー「株式会社ジャスト  
システム」入社。約10年間、宣伝業務に携わる。1998年、グラフィックデザイン  
事務所に転職。2001年よりフリーランス。「planning & copy writing niiz」  
代表。NPO法人日本タイポグラフィ協会会員。主な仕事として、香川県宇多津  
町「宇多津まちづくりシンポジウム」企画・ディレクション、韓国インチョン市 都市  
計画デザインコンペ ディレクション業務、徳島県「阿波ふうど」ネーミング・コピー  
制作業務、徳島市「阿波おどり2011-2017」公式ポスターコピー制作業務、  
徳島県「とくしまマラソン2008/2009」コピー制作業務、香川県三豊市  
「本山寺五重塔 解体・保存修理 報告書」編集ディレクション業務など。



さち香る 風の谷



旭ヶ丸をはじめ山間の風景を象徴的に半円のフォルムで表し、  
 村人の暮らしに欠かせない道路をモチーフとした線文字「さなごうち村」を配置。  
 背景には質の高い農産品、それらを育む棚田、果樹園、畑、そして大川原高原などの  
 自然や歴史スポットを描き、豊かな村であることを顕在化させました。  
 車で国道438号線を走れば、わずか10分程度で通り過ぎてしまう  
 佐那河内村というエリアに、  
 こんなにもたくさんの宝が隠れている、という事実をまず再認識していただきたい。  
 そして、村のみなさまにとっては日常の景色で当たり前のことが、  
 実は稀有な魅力に満ちた誇らしい姿であることを再発見していただきたい。  
 そんな想いを込めてデザインしました。



制作担当:藤本孝明……………1961年徳島市生まれ。大阪芸術大学芸術学部  
 デザイン学科卒。東京のデザイン事務所を経て、1992年、如月舎をはじめ。  
 NPO法人日本タイポグラフィ協会会員。2008-15/18-21年、日本タイポグラフィ  
 年鑑審査員。1997年ヘルシンキ国際ポスタービエンナーレ'97特別賞、2000年  
 イスラエル／ミュージアム・オン・ザ・シーム「Coexistence」ポスター指名コンペ  
 第1席、2007年日本タイポグラフィ年鑑 大賞など、国内外のポスターコンペで  
 多数入選。主な仕事として、阿波おどり演舞場サイン(2004-)、阿波おどり  
 ポスター(2003,2011-17)、阿波尾鶏シンボル、阿波ふうどCI、徳島県立近代  
 美術館デザイン担当(2005-)、移動スーパー「とくし丸」CI、とくしまマルシェCI、  
 神山すだちCIなど。

